



■ 岡本一平 (1866~1946)
漢学という新しい文芸をこの地方で広めた豪傑。隆興先の白川町から吉井町(美濃加茂市)に移住し、隆興はその急進、芸術家岡本太郎の父。

■ 志賀重昂 (1900~1927)
地理学者として発掘家。美濃太田から大山にいたる木曾川の風景を、ドイツのライン川と重ね合わせて「日本ライン」と命名したことで知られている。

■ 坪内逍遙 (1859~1935)
太田代官時代の末子として生まれ、明治から大正にかけて文学、演劇、教育の分野で偉大な足跡を残した。近代日本文化の先駆者。

■ 播磨上人 (1760~1840)
日本山岳史上、社説といわれる嶺々居居頂を来たした僧。太田宿をたぐりつた功績、晩年は結果者からしるべき、勲功碑が建てられた。

■ 安藤広重 (1797~1896)
江戸後期の浮世絵師。「太田の渡し」を描いた『木曾海道六帖九次』をはじめ、『東海道五三次』『名所江戸百景』など名所絵、風景画で一世を風靡した。

■ ますがた(地形)のある町並み
太田宿の入口、徳富家の家から、ここで二重階に建てた本陣や邸宅のある町並みは中山道の特色である。これを特長として、宿場町に見られる神々の在りかたである。その家づくしは、宿場町で宿場町のため工夫されたのである。町並みの美、歴史等、行先にも特長がみられる。

中山道太田宿

江戸時代の
源頼朝の
大船の跡

大船の跡
大船の跡

大船の跡
大船の跡